

## 鶴岡市総合計画審議会 会議概要（書面開催）

新型コロナウイルス感染症の市内感染状況を鑑み、書面による意見聴取を行ったもの。

- 意見書提出期限 令和4年2月18日(金)
- 委員 菅原一浩、平智、武田真理子、上野隆一、大久保紀子、加藤捷男、  
工藤久子、齋藤礼子、酒井忠順、福原晶子、山木知也、大川奈津子、  
大橋由明、丸山絢子、山中大介
- 内容 第2次鶴岡市総合計画実施計画の策定について

以下、委員意見の要旨

### ■総合計画実施計画に対する意見

- ・コロナ禍の影響をまともに受けての次期実施計画となることから、現時点で実現可能な目標値の総合的な見直しが必要だ。
- ・多様にして多面的な実施計画であっても、鶴岡らしい、鶴岡ならではの他の市町村との違いをアピールできる施策（群）の吟味と決定（合意）が肝要だ。

### ■総合計画全般に対する意見

- ・目標やKPIなどの見直しをどのように進めるか検討と協議が必要だ。
- ・新型コロナウイルス感染症により市民が新たに抱えている課題や問題意識、諸施策やまちづくりの方向性についての意識変化（提案、アイデア含む）を把握し、そのデータに基づき見直し作業を進める必要性を感じる。
- ・計画の評価結果、行政組織の課題、民間の他機関や団体・市民との協働の内容・方法が抽出できているのか気になる。改革を伴いながらでないと、新しい施策やプロジェクトの推進（達成度）には限界があるように感じる。
- ・計画の進捗状況や課題を一番重要な市民と共有できているのか疑問に思う。計画の見直しと合わせて、各年代の代表者との意見交換を行うなど、PDCAプロセスにもう少し市民の参画を取り入れることを提案する。

### ■成果指標（KPI）に対する意見

- ・すべての成果指標値について、コロナ禍前の状況で設定されたものは、アフターコロナを見据えるにしても、より現実的な数値を再検討すべきと考える。
- ・成果指標により計画の進捗状況を測りながら進めている。PDCAサイクルにより次の事業立案を進めることが大切だ。
- ・移住件数が目標値に達しておりすばらしい。目標値を再設定してもいいのではないか。

### ■施策等に対する意見

- ・コロナ支援として実施された長期経営安定資金は令和2年6月に融資を開始し2年間据え置きで今年6月から返済開始となる。コロナによる経営への悪影響が長期化していることから、既存企業の継続的支援として、更なる経営安定資金の実施を検討してほしい。
- ・城下町つるおかりブランディングプロジェクト、文化資源の保存・継承・活用では引き続きお力添えをいただきたい。
- ・「酒井家墓所」について、米沢の上杉家御廟所のように、城下町つるおかの歴史的シンボルになり得るものと思っている。一般公開に向けて、文化財指定、周辺整備など、今後のスケジュールも含めて検討いただければ幸いだ。
- ・鶴岡市の人口について、新型コロナによる都心部への人口流入に一定の歯止めがあった可能性もあると思うが、推計値と比較して減少抑制があったことは大変すばらしい。
- ・若者世代や単身者が住みたいまちや子育て世代が住みたいまちランキングで上位に食い込んでいることも大変喜ばしい。鶴岡市より上位だった都市の施策なども参考に。
- ・朝日庁舎改築事業について、行政機能のみではなく、コミュニティ維持に向けたスペース作りや経済支援、例えば産直施設の併設など、旧朝日村全体の活性化を下支えできるような施設に向けて、住民意見をくみ取れるような進め方をしてほしい。